

「閉塞性大腸癌に対する大腸ステント留置時のガイドワイヤ通過困難に関わる因子の検討」について

1. 研究の対象

2023 年 4 月～2026 年 3 月に当院で閉塞性大腸癌に対して大腸ステント留置を受けられた方

2. 研究目的・方法・研究期間

閉塞性大腸癌に対する大腸ステント留置において、狭窄部（大腸が狭くなっている部分）へ大腸ステントを留置するためにまずガイドワイヤを通過させます。このガイドワイヤの通過は手技成功に関わる重要なステップです。

ガイドワイヤの通過が困難な症例では内視鏡の視野を確保するためのゲルや先端が屈曲している特殊なカテーテルなどの補助デバイスが有用と報告されていますが、事前の予測因子は明らかではありません。

本研究では該当する患者さんの過去の電子カルテの情報をもとに、ガイドワイヤの通過が困難な症例に関連する因子を明らかにすることを目的としました。

研究期間は、病院長許可日から 2027 年 3 月 31 日です。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

- ・ 患者背景：性別、年齢、閉塞部位、Bridge to surgery（BTS）の有無
- ・ CT 検査：狭窄長、狭窄部高度屈曲
- ・ 大腸ステント手技：GW 通過時間、補助デバイス使用数、成功率、偶発症

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

研究責任者：

磐田市立総合病院 消化器内科 池田慎也